

# 春風秋雨相

江利川毅 県立大理事長



シンボル即ち象徴とは、直接的に知覚できない概念・意味・価値などを、それを連想させる

具体的事物や感覚的形象によって間接的に表現すること（大辞林）。組織のあり方を考え、構成員の心をまとめていくとき、シンボルは特別の役割を果たすものである。

## ■自 覚

2001年1月6日に中央省庁再編が行われ内閣府が誕生した。総理府、経済企画庁、沖縄開発庁等を統合しつつ、新たに経済財政諮問会議、総合科学技術会議等四つの重要政策会議を置いた組織である。主任の大臣は内閣総理大臣であるが、多くの業務は官房長官と複数の担当大臣のもとで行われる。私は総理

## シンボルとミッション

う総合調整官庁で、広い視点で国政に係わる仕事をした人には、省庁にとられない内閣府人としての自覚を持ってもらいたいと思った。

幅広い業務を有する内閣府は、職員の半数は他省庁からの出向者である。職場は10を超えるビルに分かれている。民間ビルで2年間仕事をして出身省庁

に戻った場合、内閣府職員としての自覚を持つのだろうか。私は、職員全体に、内閣府のミッション（使命）は何で、内閣府で働く職員はどういう心構えを持つべきか、意識してもらう必要があると思った。

そこで、課長補佐以下の若手15人のチームにミッションを検討させ、求められて私も一緒に議論した。ミッションを整理し、シンボルマークは専門家に20ほ

ど案を作ってもらい、内閣府職員の投票で3案に絞り、その中から当時の小泉内閣総理大臣が決定した。そのマークと説明は内閣府ホームページ（HP）をご覧いただきたい。内閣府の職員は、出向者も含め、シンボルマークとその説明を読んで、内閣府人としての自覚を持つてほしい。また、当時の舛添大臣の

# 組織の「心構え」を示す

## ■鼓 舞

厚生労働事務次官の時は、年金記録問題、日本年金機構の設立、協会けんぽの設立、C型肝炎訴訟への対応、中国産の毒入り冷凍餃子事件、日比谷年越し派遣村、新型インフルエンザ、元厚生事務次官夫妻の殺害事件、村木局長の誤認逮捕・冤罪（えんざい）事件、人生85年懇談会、社会保障国民会議など、ルーティン業務のほかに膨大な

提案でシンボルマークを作ることになった。国民から公募したシンボルマークは人生85年懇談会の委員に審査していただいて決定した。

若手チームにより標語と行動指針がまとめられ、幹部会にかけ、大臣の了承をいただいた。厚生労働省HPをご覧いただきたい。「ひと、くらし、みらいのために」という標語は、封筒や名刺や資料などに必ず印刷さ

創発」。人間性を磨き、積極果敢に、共に高め合って新しいものを作り出すという趣旨である。昨年、この基本理念を踏まえた大学歌が完成した。歌詞は学生教職員から募集し、4年生の作品が選ばれた。曲は、卒業式でよく歌われる「旅立ちの日に」を作曲された高橋浩美先生（県立秩父特別支援学校教諭）に作っていただいた。詳しくは県立大学HPをご覧いただきたい。

組織のシンボルやミッションは多くの人の意見を収斂（れん）して、納得度の高いものであることが大事である。

## ■道 標

れ、常に職員が意識するところとなつている。

わが国は今、天皇陛下の生前退位が議論されている。「日本の象徴であり日本国民統合の象徴」（憲法第一条）である天皇陛下のあり方に係わる極めて重要な事柄である。国民が心から納得できるものになるよう、多様な意見が煮詰められ、叡智が結果されたものになることを願ってやまない。

（今回は4月17日付）